



三澤氏の遺徳を偲ぶ 要害山三沢城築城七百年祭

三沢小学校で行われた記念式典には、三澤氏の祖と言われている長野県飯島町から飯島氏第二十九代当主の飯島紘氏、大澤教育長をはじめ多くの関係者、三澤氏の末裔にあたる三澤元幸氏、県、町関係者、地元の方などが出席しました。

景山武夫実行委員長長の挨拶の後、故白根正一郎初代保存会会長をはじめ三沢城の保存活動に功績のあった四名の方に感謝状が贈呈されました。

また三澤氏ゆかりの刀剣並びに初代当主・為長、九代当主・為清の想像画の披露も行われました。

続いて藤岡大拙前島根県立女子短期大学学長から「山陰

記念式典・講演

さわやかな秋晴れとなった十月十六日、要害山三沢城築城七百年祭が、三沢地区の全戸で組織する記念事業実行委員会の主催で盛大に開催されました。

要害山三沢城は嘉元三(一三〇五)年に築城され、以来二百八十年余の間、出雲最強の国人武将・三澤氏の居城となりました。

この遺構は、中世山城の代表的な城跡として昭和三十九年、島根県史跡文化財に指定されています。

当日は県内外から多くの方が来町し、尼子と毛利との戦国大名の狭間に揺れながら、領地を平穩に守り抜いた三澤氏の遺徳を偲び、中世奥出雲の歴史ロマンに思いをはせました。

記念イベント

三沢運動広場では、記念イベントとして、本町を代表する郷土芸能「仁多乃炎太鼓」が勇壮な太鼓演奏を行うなか、広瀬町の「出雲尼子を興す会」、三沢公民館鑑兜教室、三沢小学校の児童ら総勢五十名による武者行列が勇ましく繰り出しました。

今回使われた鎧、兜は、三沢公民館鑑兜教室の皆さんの手によって作られたものです。

また三澤氏が多くの戦で、鉄砲を用いて武功をあげた事にちなみ、岡山県から「岡山城鉄砲隊」を招き、火縄銃、大筒などの古式豊かな演武が披露されました。

要害山では奉祝祭

会場を要害山の山頂に移して奉祝祭が行われました。

神事後、三澤氏の武勇を称え地元剣道連盟の会員による日本剣道型の奉納、関西吟詩文化協会正洲会仁多教室による詩吟、大日本正義流詩舞同好会の酒徳千昭先生による詩舞の披露もありました。

また神事に参加した三沢小学校、幼稚園の全児童が自分の夢を書いた風船を飛ばし、夢が実現するよう祈りました。

最後に代表者により、乱世の時代、一族を統率し領内の民を守りぬいた三澤氏を偲び、飯島町の木・イチイなどの記念植樹が行われました。

火縄銃の演武



「メガネの三城」創業者 多根良尾翁胸像除幕式

佐白地区出身で「メガネの三城」創業者・故多根良尾氏の生誕百年を記念し、生誕地佐白、志學荒神社境内に胸像が建立され、その除幕式が10月10日に行われました。

良尾翁は「三城」をメガネ業界で世界トップの企業に育てると共に、地元には志學荒神社の再建、宿泊・研修施設を備え、世界の化石を展示した奥出雲多根自然博物館の建設、教育基金の設置、学校施設の整備などふるさとづくり、児童の健全育成にも多大の貢献をして頂きました。

式典には、多根氏の長男で「三城」取締役会長の多根裕詞氏、アルメル・カイエール社長、澄田県知事、岩田町長、安部敏雄顕彰事業実行委員会会長をはじめ多くの関係者が出席し除幕や餅まきなどを行い、良尾翁の生誕百年を祝う顕彰行事が行われました。

完成した胸像は、本金箔仕上げ等身大の半身像で、銘板は澄田県知事の揮毫によるものです。

この胸像は、「子供のときに、得意なことを実現する夢を持つように」と言われた良尾翁の青少年健全育成のシンボルとして、また郷土の誇りとして末永く語り継がれていくことでしょう。



地元のシンボル多根自然博物館と志學荒神社



代表者により除幕

第27回商工まつり 第1回奥出雲町芸術文化祭、芸能音楽祭

～多くの人で賑わいました～

紅葉が見頃となった11月3日から5日にかけて、横田地域で、第27回商工まつり(横田町商工会主催)、第1回奥出雲町芸術文化祭、芸能音楽祭が開催されました。

餅まきで華やかなオープニングを飾った商工まつりでは、餅つきの実演販売や、地元産のコウタケを使った炊き込みご飯など、特産品を使った食べ物の販売、特産品の即売、チャリティーバザー、第14回ゲートボール大会、ホッケーのPS大会など様々な催しが行われました。



特設ステージでは多くの出し物が行われました。



秋の味覚に舌鼓

特設ステージでは、奥出雲町誕生を記念し、仁多・横田両地域のカラオケ教室の競演で「カラオケ歌謡ショー」が行われ、会場からは盛んに拍手が送られていました。

また横田コミュニティセンターでは、地元の方の絵画、書、写真など多くの力作、秀作が展示されました。

芸術の秋、食欲の秋を楽しむ多くの人で、会場は賑わっていました。